

2026年2月2日 実施

福岡大学

一般 英語



〔I〕

私たちの思考や判断の質ということになると、通信メディアが提供する情報量は、それらのメディアが情報を提示する方法や、私たちの頭がその情報を取り入れる方法ほど重要ではない。

〔II〕

12, 14, 17, 20

〔III〕

(a)1 (b)3 (c)2 (d)4 (e)4 (f)1 (g)2 (h)3

〔IV〕

(a)5 (b)4 (c)3 (d)1 (e)2 (f)5

{V}

A (a) 5 (b) 4 (c) 6 (d) 7 (e) 3 (f) 2

B (a) 4 (b) 6 (c) 1 (d) 7 (e) 5 (f) 3

C (a) 4 (b) 2 (c) 5 (d) 7 (e) 1 (f) 3

D (a) 4 (b) 1 (c) 5 (d) 6 (e) 7 (f) 3

【講評】

〔Ⅰ〕の和訳は when it comes to と less than が使用されている構文ですが、どこがどこに修飾し、並列になっているかを見定めればそれほど苦勞することはなかったと思います。日本語として自然な語順で訳出できたかがポイントになります。

〔Ⅱ〕「デジタル化で手書きの減少がもたらす影響」をテーマにした文章でした。大変読みやすい英文でしたが、筆跡鑑定人の減少率のような数値データは考える必要のある問題でした。

〔Ⅲ〕本試験で最も難易度が高い問題です。特に(e)の win の問題はトリッキーでした。

〔Ⅳ〕日ごろから発音練習を行っている受験生には難しい問題ではなかったと思いますが、mortgage のような難しい単語が出題され焦ってしまったかもしれません。

〔Ⅴ〕問題訂正があった B と C を含め、「Should の仮定法の倒置」や「The + 比較級」などの重要基本構文が並びました。

例年通り、和訳・長文・不適切選択・発音・整序という福大医学部特有の構成でした。長文の難易度は落ち着いたものの、不適切問題は相変わらず悩ませる問題でした。

ケアレスミスを最小限に抑え8割を目指したいところです。